



号外

昭和34年4月1日
第3種郵便物認可

定価1部2円

発行所

盛岡市内丸10番1号

岩手県内

岩手県職員労働組合

No.号外7

2021年

1月4日

試験研究部門の体制拡充は継続課題。現場視点からのあるべき組織体制の確保に向けて引き続き要求を。

2020評協議会交渉⑦ 12.25農林水各試験研究機関・家保/農林水産企画室長交渉

研究部 改善姿勢も 体制拡充は継続に

各研究機関の組織体制は現状・他県状況踏まえ研究＝家保体制強化(獣医師確保・機器強化)は善処する＝

県職労では、農業（農研・畜研他）、林業（林技）、水産（水技・内水面）の各試験研究機関に係る職場実態討論を経て、来年度の組織・定数要求や職場環境改善を柱とする、農林水産部長あて要請書を作成。併せて、各家畜保健衛生所の課題を集約した家畜保健衛生所の体制強化の要請書も作成。12月25日大畑農林水産企画室長に手交のうえ、交渉を行った。

【交渉結果】

①農業研究は「増員は難しいが、必要な人員配置は努力」、「各研究部門の現状、東北各県の状況を確認し、センターの組織体制の在り方を検討」とした。予算確保は「農業振興・発展のための研究の位置づけを財政側に理解いただく必要。農林水産企画室として連携しながら予算要求する」とした。交渉団から会計年度任用職員の配置等の改善を求めた。

②林業研究は「研究部門は体制確保に努める。林業アカデミーは継続できる運営体制の検討が必要。森林環境譲与税を活用して体制確保を進める」とした。

③水産研究は「主要魚種の不漁の中、研究・普及に努力。必要な体制確保に努める」、「業務で必要な資格取得等の経

費支援は引き続き研究」、「施設整備は優先順位を付して計画的な整備に努める。内水面の庁舎の在り方は個別施設計画の位置づけを検討」とした。

④家保は「公務員獣医師を志す人材の確保のため引き続き工夫。処遇改善は総務部に申し入れる。機器整備は優先度を付し計画的に対応」とした。

大畑室長から各研究部門・家保体制の改善が必要との姿勢を引き出すも、拡充に向けた具体的な改善は継続となった。引き続き、課題を集約し、改善を求めていく（主な交渉結果は裏面）。



農業部門要請書を手交（農研・吉田分会長）



林技要請書を手交（林技・小澤分会長）



水技要請書を手交（水技・清水分会長、内水面・加賀分会長）



見解示す大畑室長

1 農業研究部門の体制強化（人員・県単研究費拡充ほか）

（農水室長）①研究体制の拡充（病虫害防除含む）は、現状では職員定数の増は難しい。しかし、重要な役割があるため、人員配置は努力する。今年度、農林水産部長の発案で各研究部門の現状を確認し、かつ東北各県の状況を踏まえ、どういう体制がよいか意見交換。組織の在り方を検討していく。

②予算措置は、研究の重要性、農業振興・発展のための位置づけを財政サイドに理解いただく必要。予算要求公所として農研センターが要求するもの、県庁各課で要求するものがあるが、こういう位置づけでこういう予算が必要ということを農林水産企画室と連携して予算要求していけるようにする。



実態訴える・農研吉田分会長

（県 職 労）会計年度任用職員制度が始まり、日々雇用職員の勤務時間が短縮された。職員負担が増すばかりか、研究にも支障。勤務時間の見直しを含めて改善を。研究部門の新規採用職員の異動スパンが短く、モチベーション上の課題あり。

（農水室長）日々雇用職員を含め、技能労務職員は必要。会計年度任用職員については、フルタイム化は全庁的に難しいと思料。人員要求に当たりパートの増員がよいか、正規の確保がよいか、戦略的に考える必要。新採用職員の配属は、職員の適性を見て配置。もっとも、職場の負担感もきちんと考えていく必要。

2 林業研究・研修部門の体制強化（林技）

（農水室長）定数増員は難しい面があるが、森林・林業研究・研修は重要であり、各課とも連携して対応する。林業アカデミーは2019年度から森林環境譲与税を活用、当該財源を活用して運営体制を研究する。来年で5年目であり、過渡期。財源を活用しながら、人材育成が定着できるよう、よくよく念頭に置いて対応を検討する。

（県 職 労）林業アカデミーは2021年度14人受講予定。運営体制の確保を。



体制強化を・林技小澤分会長

3 水産研究部門の体制強化（水技・内水面）

（農水室長）①体制強化は、主要魚種の不漁の中で、研究・普及に努力いただいている。必要な人員体制の確保に努める。②業務上必要となる講習受講経費は、必要な予算が確保できるようにする。人事課の自己啓発支援制度において業務上必要な資格に位置付けてもらうよう人事課と相談。

③老朽化対策は、水技は試験棟の老朽化の話を伺っている。優先順位を付して計画的な整備に努める。内水面は庁舎を作る時期に来ている。個別施設計画の位置づけに向けて、財政課と相談していく。

（県 職 労）経験者と若手とのバランスの取れた配置を。小型船舶資格が必要な時もあり、必要な資格取得時の支援を検討していただきたい。修繕業務が増加するなか、内水面の事務職員の増員又はフォロー体制の構築を。⇒（農水室長）資格取得時の支援策は引き続き研究。事務業務のフォロー体制はどういった対応ができるか研究させていただきたい。



改善求める内水面・加賀分会長（左）/水技・清水分会長（右）

4 家畜保健衛生所の体制強化

（農水室長）獣医師確保に向け貸付制度の見直し、通年募集等の工夫をしている。インターンシップ等で役割を伝え、公務員獣医師を志す学生を作っていきたい。処遇改善は総務部に申し入れし、実現をはかる。施設・機器は優先度を踏まえて計画的に配置。国庫をうまく活用して体制・機器の強化に取り組む。

（県 職 労）鳥インフル・豚熱が全国で拡大し、喫緊の課題。早急に拡充を。



回答する大畑室長